

独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所（登戸）
2020年度 第3回 研究倫理審査委員会議事要旨

2021年1月25日（月） 14:00～16:15

独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所（登戸地区）、
オンライン開催

出席委員：井澤修平委員、久保智英委員、佐々木毅委員長、外山みどり委員
高橋正也委員、高橋幸雄副委員長、日野泰道委員、
山口さち子委員、吉川 徹委員（以上、内部委員）
池添弘邦委員、石森義雄委員、大貫恵佳委員、北島洋樹委員
児井正臣委員、宮城洋平委員（以上、外部委員）

オブザーバー：所長代理 甲田茂樹

欠席：山本健也委員（以上、外部委員）

（五十音順）

筆責：井澤修平、山口さち子

1. 開会挨拶

2. 資料確認

3. 前回議事要旨の確認

4. 迅速審査対象案件の結果報告

前回委員会以降に7件の迅速審査（新規研究計画書4件、研究計画変更申請3件）が申請された。規程に基づき申請ごとに異なる内部委員2名で審査した結果、3件の申請（2020N-1-19（申請者：吉川徹）、2020N-1-20（申請者：柴田延幸）、2020N-1-21（申請者：大久保利晃））が「承認する」、4件の申請（2020N-1-15（申請者：上野哲）、2020N-1-16（申請者：王瑞生）、2020N-1-17（申請者：柴田延幸）、2020N-1-18（申請者：蘇リナ））が「条件付きで承認する」と判断されたことが報告され、承認された。

5. 新規申請案件の審査

2020年度第3回研究倫理審査委員会までに、通常審査として提出された新規研究計画書1件、研究計画変更申請3件を審査することになった。その他、研究実施状況報告書1件が

提出された。

審議の結果、「承認する」が 1 件、「条件付きで承認する」が 3 件となった。以下に示す審査結果は要旨であり、詳細なコメントについては別途申請者本人に通知する。

申請番号 2020N-1-22：計画変更：熱中症による救急搬送データを熱中症研究の疫学データとして用いる場合の信頼性の検討（基盤的研究「熱中症救急搬送データと労災病院のデータを用いた熱中症の分析」の一部）（申請者：上野 哲）

【条件付きで承認する】

以下の指摘事項について加筆・修正等を行うことを条件に承認する。

- (1) 安衛研に持ち込む外付け HDD の保管方法について、記載して下さい。
- (2) 解析データを労災病院から研究所に持ち出すことになるので、研究計画書、オプアウト文書も含めて随所にある「データは一切持ち出さない」旨の記載を「研究所に持ち出す」旨に修正して下さい。

申請番号 2020N-1-23：計画変更：建設現場における高年齢労働者の暑熱対策基準の策定に関する研究（プロジェクト研究「高年齢労働者に対する物理的因子の影響に関する研究」の一部）（申請者：齊藤宏之）

【条件付きで承認する】

以下の指摘事項について加筆・修正等を行うことを条件に承認する。

- (1) 小型カメラに録画された他の作業員の顔などは個人識別符号の情報に該当するので、その対応を明記して下さい。
- (2) カメラに写る他の作業員に対するオプアウトの方法を検討してください。

申請番号 2020N-1-24：新規：胸部パッチ型センサによる深部体温測定の現場調査（基盤的研究「パッチ型センサによる深部体温推定の妥当性評価」の一部）申請者：時澤 健）

【条件付きで承認する】

以下の指摘事項について加筆・修正等を行うことを条件に承認する。

- (1) 被験者および倫理審査委員会が、被験者の負担・リスクの程度（労働環境、労働時間、保護帽着用時間など）を理解できるよう、説明・記載を加えてください。

申請番号 2020N-1-25：計画変更：安衛研で開発された質問紙（WLAQ）と体力測定法（HRmix）を企業現場で活用するための疫学研究（労災疾病臨床研究「過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究」及び学振・科研費「労働者の体力と座位行動に着目した疫学研究：職域コホート研究創立と介入策確立」の一部）申請者：松尾 知明）

【承認する】

本申請課題は倫理審査で承認を得ている実行中の研究であり、計画が変更された点につ

いて、特段課題となる点はないため承認する。

6. その他の案件（利益相反等）の審査

利益相反に関する審査書類は、通常審査として1件の申請（2020N-COI-01（申請者：時澤 健））が提出された。規定に基づき委員長が審査した結果、「承認する」と判断されたことが報告され、承認された。

7. その他

論文の投稿時や受理時に研究データセットの提出を求められることがあり、これについてインフォームドコンセントなどでの対応が必要であることが議論された。また、今後、クラウドを利用した研究が増えていくことを想定して、情報セキュリティに詳しい外部委員の必要性が議論された。

以上